

# 星たちからのメッセージ 切手の中の星座と天体

## Constellations and Astronomical Objects in Stamps

日本の郵便切手は独立行政法人国立印刷局が主な製造元で、民間の印刷業者も製造の一部を請け負っています。国立印刷局のホームページには、切手について次のような記載があります。

郵便切手は、小さなキャンパスの中に広がる「小さな芸術品」と言われています。国立印刷局では、グラビア印刷方式を駆使し、繊細な画線や豊かな階調の再現により、奥行きのある郵便切手を製造しています。また、グラビア印刷と凹版印刷を組み合わせた郵便切手や世界初の和紙シールを用紙とした郵便切手など、伝統と様々な技術が融合された郵便切手として、海外からも高く評価されています。（出典：国立印刷局HP）

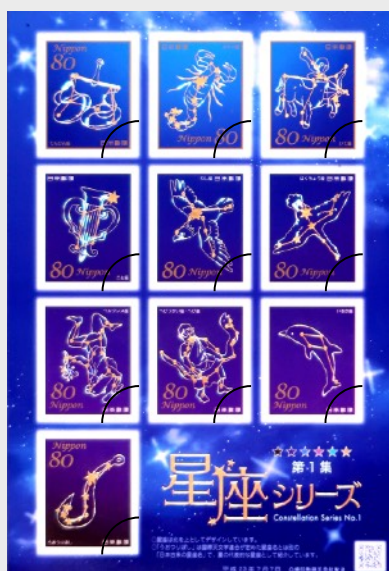
日本の郵便切手の発行は日本郵政の事業の一部です。郵便料金の支払いを主な目的とする「普通切手」や特定の記念行事などのために発行される「特殊切手」などがあります。「特殊切手」の中には、天文や宇宙をテーマとしてデザインされた魅力的な「小さな芸術品」を沢山見つけることができます。

### ● 星座シリーズ（右）

郵便事業株式会社（現在の日本郵便株式会社）が、手紙文化と自然科学の両分野の振興を目的として、顧客から要望の多かった「星座」をテーマとして発行したものです。2011年7月7日発行の第1集から2013年12月4日発行の第4集まで4種類あります。いずれも凸版印刷株式会社（現在のTOPPAN）が製造し、オフセット（画像を版に直接転写せず、中間版を介して紙に印刷する方式）6色、ホログラム（光の位相情報も含めて記録・再生する立体写真の技術）、箔押し（金属箔を転写する加工技術）など、高度な印刷技術が駆使されています。

### ● 天体シリーズ（下）

「星座シリーズ」の続編として2018年2月7日に発売された第1集から2021年2月3日に発売された第4集までのシリーズです。いずれも凸版印刷株式会社（現在のTOPPAN）が製造し、透明ホログラム箔を使用した切手シートは角度を変えると光を反射し、キラキラ光るデザインとなっています。



「星座シリーズ」第1集

- |      |     |     |
|------|-----|-----|
| (1)  | (2) | (3) |
| (4)  | (5) | (6) |
| (7)  | (8) | (9) |
| (10) |     |     |

- (1)：てんびん座  
(2)：さそり座  
(3)：いて座  
(4)：こと座  
(5)：わし座  
(6)：はくちょう座  
(7)：ヘルクレス座  
(8)：へびつかい座・へび座  
(9)：いるか座  
(10)：うおつりぼし

星座は北を上としてデザインしています。

「うおつりぼし」は国際天文学連合定めた星座名とは別の「日本古来の星座名」で、夏の代表的な星座として紹介しています。



「天体シリーズ」第1集

- |   |   |
|---|---|
| ① | ③ |
| ② | ⑥ |
| ④ | ⑦ |
| ⑤ | ⑧ |
| ⑨ | ⑩ |

- ①：馬頭星雲  
②：オリオン大星雲（部分）1  
③：わし星雲（部分）  
④：星形成領域 S 106  
⑤：オリオン座イオタ星付近  
⑥：オリオン大星雲（部分）2  
⑦：ヘール・ボップ彗星  
⑧：太陽（部分）  
⑨：水星  
⑩：金星（部分）

# 「思いを伝える」 絵葉書の宇宙

Cosmos applied on postcards

平成16年11月に神戸市垂水区に開館した絵葉書資料館は、明治後期から昭和初期の国内外絵葉書を常設展示している個性的な資料館です。ホームページには、明治4年（1871）に前島密の建議で始まった郵便制度の発足以降の絵葉書の歴史が簡潔にまとめられています。それによると、通常葉書は明治6年（1873）、私製絵葉書は明治33年（1900）から使用が認められ、日露戦争の記念絵葉書が大ブームを経て、全国に絵葉書専門店が次々と開店して庶民に浸透していきます。出版大手の「博文館」が販売した美術絵葉書は美術作家の発掘と絵葉書の普及に貢献し、大正期にはより自由な発想によるデザインが発達しました。この間、アールヌーボー様式などのヨーロッパの影響、木版の伝統を色濃く残す作品、商業デザインの隆盛など多様な展開が見られます。大正から昭和の始めにかけては子供向けの絵葉書が人気を呼びました。

現在も身の回りには数え切れない種類の絵葉書があります。その中で身近にある宇宙をテーマとする絵葉書を少しだけ紹介します。みなさんがお持ちの絵葉書にも宇宙をテーマとするものがたくさんあることでしょう。



「HAYABUSA」（はやぶさ）



「HAYABUSA 2」（はやぶさ 2）

## ● HAYABUSA（上）

「HAYABUSA」は小惑星「イトカワ」からサンプルを持ち帰る使命を果たした小惑星探査機です。イオンエンジン（プラズマ状イオンの加速で推力を得るロケットエンジン）による惑星間航行を成功させ、2010年に、月以外の天体からサンプルを地球に持ち帰る偉業を達成して帰還しました。後継機「HAYABUSA 2」は小惑星「リュウグウ」の表面サンプルを採集し、そのサンプルは2020年に地球に届けられました。サンプルの解析は太陽系の物質についての多くの情報を与えることが期待されています。「HAYABUSA 2」は「拡張ミッション」に移行し、現在も宇宙空間を航行しています。この絵葉書は大阪の3D雑貨企画レッグニットテックが手がけた製品で、ジオラマ撮影による独自の3D技術により、臨場感のある奥行きのある立体感が表現されています。

## ● 空想天体古書・月の満ち欠け（右）

「空想天体古書・月の満ち欠け」は、“天体古書をモチーフに空想の本を作る”をテーマとしてデザインされたポストカードです。幻想的な天体モチーフを得意とするデザイナーLALA CloveR.によるオリジナルデザインで、月の満ち欠けと12星座を中心に、変化に富んだ不思議な空想世界が展開します。現実には存在しない天体に関する架空の古書と天体モチーフを組み合わせたデザインは神秘的な雰囲気を出し、宇宙がデザイナーの創作意欲を否応なく刺激することを示す好例でしょう。



「空想天体古書・月の満ち欠け」シリーズより

(MK)